

# 皇太子殿下のおことば



第40回全国育樹祭が、全国各地から多くの参加者を迎え、ここ京都府の「府民の森ひよし」において開催されることを喜ばしく思います。

京都府は74%を森林が占める緑豊かな地であり、とりわけ京都丹波高原を中心とするこの地域は、かつては平安の都の造営を支え、今日では北山杉に代表される木材、丹波くりや京野菜などの豊かな恵みをもたらし、長きにわたって人々の暮らしを支え、文化を育んできました。

豊かで美しい森林は、国土の保

全や水源のかん養、木材の生産など、人々の生活にとってかけがえのない役割を果たすとともに、地球温暖化の防止や生物多様性の保全など、地球環境を守る上でも期待が大きくなっています。

こうした森の大切さを思うとき、緑を守り、大切に育ててこられた先人に感謝するとともに、この豊かな森を次の世代に引き継いでいくことが、今を生きる私たちの務めであると考えます。

昨日、私は山城総合運動公園ふれあいの森で、平成3年の第42回全国植樹祭において、天皇皇后両陛下がお手植えになった京都府の木「北山杉」と、京都府の花「シダレザクラ」の手入れを行い、お手植えの木々が、25年の歳月を経て、府民に親しまれ健やかに成長している姿に感銘を受けました。

そして京都府では、林業関係者だけでなく、企業やボランティアの皆さんなど幅広い府民の皆さんが参加して森づくりを進める「京都モデルフォレスト運動」が、今年10周年を迎えることを聞き、心強くまた喜ばしく思いました。

本日、表彰を受けられる方々をはじめ、日頃からそれぞれの地域において、国土の緑化に尽力されている全国の皆さんに敬意を表するとともに、そうした活動が、これからも多くの人々に支えられ、さらに発展していくことを期待します。

終わりに、この大会のテーマである「育樹の輪 ひろげる森と木の文化」にふさわしく、森林を守り育て、木とともに人々が暮らしてきた文化が、ここ京都の地から全国へ、未来へと継承されていくことを願い、私のあいさついたします。

